

機関名: (地独)北海道立総合研究機構水産研究本部

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	ニシンは石狩・後志北部で不漁。 コマイ(親室)が大不漁 サクラマスの漁獲が低迷(後志北部・渡島西部) アカガレイの漁獲が低迷(後志北部) ミスダコの漁獲が低迷(後志北部) ヤリイカの漁獲がほとんど無い(渡島西部) ホッケの漁獲が低迷(渡島西部)	水産海洋・漁場保全関係 水温:1月が平年より1～3℃低く、2月も0～4℃、3月も2～4℃低かった(日本海沿岸)。 暖海性のノコギリザメ(檜山北部)が漁獲された(120 cm、2.5 kg)。 昨年トドの群れが発見された北檜山区太檜地区で、今年は昨年の2倍以上の約70頭が確認された。アンコウやカスベを対象とした刺し網漁業に深刻な被害を与えた(檜山北部)。	特になし	特になし

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	日本海でオオクチイシナギ、マフグ、キアンコウが大量に漁獲され、各魚種の2月の漁獲量及び過去5年平均との比較では、オオクチイシナギが2,584kgで15倍、マフグが32,092kgで25倍、キアンコウが13,830kgで2倍となった。 このほか、2月下旬から低水温の影響と見られる、津軽海峡でのマダイの仮死状態での浮上、津軽海峡から日本海にかけてのババガレイ、アカムツ、フグの比較的多量な入網が認められた。	水産海洋・漁場保全関係 特になし	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: 秋田県水産振興センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	2月の底びき網によるハタハタ漁獲量は44tで、前年同期の146倍と、平成14年以降では最多であった。	水産海洋・漁場保全関係 県北部海域では、水深70m付近で操業した底びき網に入網したアカアマダイで斃死が多く、一網当たり半分程度(数尾)が斃死し、衰弱したマダイも入網したとの報告があった。また、同海域ではウスメハルのさし網で、1日数尾(例年の1/10程度)と漁獲量が非常に少ないとの報告もあり、1～3月のウスメハルの釣りとはいえなわの全県漁獲量は10.3トンと25年同期27.3トンの1/2以下となっている。	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 速報 ハタハタ1歳魚にピンクリボンタグを装着し、男鹿半島南海域から806尾放流(4月17日)。

機関名: 山形県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	1～2月のマダラの漁獲(152トン)が平年比47%と不漁であった。	水産海洋・漁場保全関係 3月に沿岸の水深200m層で水温がはなはだ低かった。(平年差-2.6℃)	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: 新潟県水産海洋研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	12月に引き網、1、2月も佐渡両津湾の定置網によるスルメイカ水揚げ量は306トン(平年比225%)と好漁であった。同月スルメイカ釣りも39トン(平年比557%)と好漁であった。	水産海洋・漁場保全関係 タイオウイカ(計8個体)、カグラザメなど珍しい魚等の採捕、漂着が多数(詳細は http://www.pref.niigata.lg.jp/suikai/suikaiteipos140403.html 参照)	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	特になし	水産海洋・漁場保全関係 特になし	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: 石川県水産総合センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	特になし	水産海洋・漁場保全関係 特になし	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: 福井県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	特になし	水産海洋・漁場保全関係 特になし	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	2月の定置網によるサバ類の漁獲量が514トン(昨年月比6.1倍)と豊漁であった。漁獲の主体はFL20～30 cmであった。1～2月の定置網によるクロマクロの漁獲量が48トン(平年同期比2.4倍)と多かった。漁獲の主体は3～4 kg級であった。	水産海洋・漁場保全関係 特になし	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) リュウグウノツカイやサケガシラの出現が例年に比べ多かった。

機関名: 兵庫県農林水産技術センター但馬水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	タイオウイカの捕獲、入網相次ぐ。把握しているだけで4個体(うち2個体は漁業者談)。外套長1.2～1.7m。	水産海洋・漁場保全関係 特になし	水産増養殖関係 但馬沿岸全域でホンダワラ(地方名称ジンバ)の漁獲がほとんど無かった。	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: 鳥取県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	【境港まき網】 ・3月にマサバが、約5,200トン(5,000トンを超えるのは18年ぶり)、カクチイワシが約4,400トン(4,000トンを超えるのは3年ぶり)と水揚げが多かった。	水産海洋・漁場保全関係 特になし	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 弓ヶ浜にヒメウミガメ(2月12日)とオオギハクジラ(3月25日)が漂着。

機関名: 鳥取県栽培漁業センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	アカモクの成長が悪かった。	水産海洋・漁場保全関係 2月中旬から3月中旬にかけて水温が低下し、平年より0.7℃から1.7℃低い状況となっていた。	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: 鳥根県水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	特になし	水産海洋・漁場保全関係 恵曇の2月の水温は、平年値より1℃低かった。この現象は20年に1回の出現確率であった。	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: 山口県水産研究センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年1月～3月	特になし	水産海洋・漁場保全関係 特になし	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし